



9/11 子どもたちの健やかな成長を願い ～西原大神宮秋季例大祭 にしぼるさん～

▶四ツ山幼稚園の園児約80人も参拝に訪れました



西原大神宮で秋の大祭「にしぼるさん」は行われました。同宮は昔から「子どもの神様」として知られ、子どもの誕生と健やかな成長を祈願に多くの人を訪れます。また、子どものすじ、ひきつけや夜泣きなどにもご利益があるとされ、神の使いである鶏の絵が描かれた絵馬に子どもの年齢と名前を書いて奉納します。西原町から参拝に来た中村美紀さんは、「毎年来ています。3歳と0歳の子どもたちの健康を祈願しました。あいつのできる大人になって欲しいですね」と話しました。

9/13 福銭求め多くの人でにぎわう ～四山神社秋季例大祭 こくんぞさん～

▶奉納された浦安の舞。4人の息がぴったりと合っていました



四山神社で秋の大祭「こくんぞさん」は行われ、縁結びや商売繁盛などを祈願に多くの人を訪れました。境内には、金運などにも通じる縁起物の「福銭（5円玉）」を手にする人の姿や、福銭をかたどった「ご縁くぐり」をくぐる人の姿があり、浦安の舞・豊栄の舞が奉納されると、多くの人美しい舞に見とれていました。浦安の舞を奉納した島崎はるなさん、古澤美咲さんは、「緊張もしましたが頑張って練習した成果が出せたと思います」と笑顔を見せました。

9/23 子ども神楽の活動が評価 ～県文化財功労者を受賞～

▶地域の伝統を受け継ぐ子どもたちと保存会の皆さん



山鹿市民交流センターで開催された県文化財保護大会の中で、文化財功労者表彰式が行われました。今年度は1団体と5人が選ばれ、上荒尾熊野座神社神楽保存会が地域に密着したこれまでの活動を評価されての受賞となりました。大会のオープニングアトラクションで、上小路区の子どもたちによる神楽が披露されました。会場からは「難しい舞を見事に踊っている」、「神社の前で踊っている姿を見たい」との声が上がるなど、大好評でした。

9/30 ことしも農家の自信作が多数出品 ～荒尾梨品評会～

▶ことしのナシはしつかりした身が育ち、甘みも増しています



JA たまなと荒尾梨部会は、特産品である荒尾梨「新高」の品質向上とPRを目的に、あらおシティモールで荒尾梨品評会を開催しました。市内の梨農家62軒が腕によりをかけた自信作を出品し、梨の糖度・硬度・形・食味など品質を競いました。最優秀賞「優等」には宮崎秋吉さん（下赤田）、大きさを競う「ジャンボ賞」には森澤正高さん（菰屋）の1.8kgの大玉が選ばれました。会場の外では、梨の試食即売会などで秋の味覚に舌鼓を打つ人の姿が見られました。

寿 ご長寿 おめでとうございます



ながしま 永島トメさん（上小路）

現在、106歳の永島さんは、市内最高齢者です。40年間お茶屋さんを切り盛りしていました。5人兄弟の末っ子として生まれた永島さんは、子どもを3人育て、孫7人、ひ孫10人のおばあちゃんです。家族は、「元気で、何でも自分でしないと気がすまない母です。食欲旺盛で、何でもよく食べます」と話していました。



かみやま 上山郁子さん（大島町三丁目）

9月12日に100歳を迎えられました。昔は得意の和裁で、着物や子どもの服を作っていました。読書も好きで、日記を書くのが習慣でした。子どもや孫と九州各地を旅行する旅好きの一面もありました。孫20人、ひ孫23人、玄孫3人のおばあちゃんです。長生きの秘訣は、「好き嫌がなく何でも食べる」と話していました。

9/30 音と光に包まれ、夢の世界へ… ～音と光の祭典～

▶竹灯籠の柔らかな光に、来場者は足を止めて見とれていました



一小校区元気づくり委員会は、宮崎兄弟の生家で音と光の祭典を開催しました。一小の6年生が企画・運営から参画するのも、ことしで4年目となりました。これまでの経験を生かし、さらに踏み込んだ生家施設のガイドや、滔天と孫文の紙芝居発表、滔天マルシェの運営など大いに活躍し、1,200人を越える来場者はそれぞれのイベントを楽しんでいました。各所に設置された竹灯籠や行灯に灯がともされると、会場一帯が幽玄な雰囲気になりました。

10/4・5 やっぱり荒尾梨はおいしいね ～デザート梨の日～

▶ナシを頬張る子どもたちと浅田市



市内の小中学校の給食に、市特産の荒尾梨「新高」が出され、甘くてみずみずしい秋の味覚を子どもたちは堪能しました。地元の特産物を通して食文化への理解と食育への学びを深めてもらおうと、「デザート梨の日」として毎年実施されています。1/6カットされたボリューム満点のナシを頬張った子どもたちは、「口いっぱい甘さが広がっておいしい」と笑顔を見せていました。また、有明小では、浅田市長、教育委員らも教室で子どもたちと給食を味わいました。